

平成27年度 佐渡市国語部 活動報告

部長 白井 昭子

1 研修の方針

- ・佐小研国語部授業研修会にて授業を公開し、授業改善の在り方を見付け、指導力向上を図る。

2 研修の概要

- (1) 第6学年 「やまなし」の授業より (会場：佐渡市立畑野小学校 授業者：須田 寛子 教諭)

- ① 研究テーマ 「かかわり合う授業をつくる」

- ② 本時のねらい

色彩語に着目し、2つの場面を対比することで、その情景を想像する。

- ③ 授業の実際

五月と十二月の色彩語を使った2文を提示し、かになにとって明るい世界はどちらかを問うた。二つの情景図に色彩語を使った文をペアで位置付け、それを全体で検討した。その後、十二月のかにを動作化させ、かへの気持ちを話し合うことで、「怖い・きれい」と相反する意見が出た。ペアに戻し、二つの世界のイメージを対比させ、明るい世界はどちらかを再度問うた。最後に二つの世界に名前を付けさせた。

- ④ ご指導 (上越教育大学 教授 赤坂 真二 様)

- ・「アクティブラーニング」のねらいは、仲間を作り、仲間を支援していくことにある。主体的・協働的な学びが必要である。本時の学習では、誰もがペア学習に参加し、良好な関係性が培われていた。
- ・協同学習とは、ペアやグループでの学習形態のみを指すのではない。学級力の高さは、課題解決能力の高さである。「関係の質」→「思考の質」→「行動の質」→「結果の質」の循環の仕組みが、課題解決能力の高さなのである。



- (2) 第4学年 「ごんぎつね」の授業より (会場：佐渡市立金井小学校 授業者：松田 健太 教諭)

- ① 研究のテーマ

「文学的文章において物語の論理を読み取る力をつける授業
～焦点化された学習課題の提示と視覚化された話し合い活動の工夫～」

- ② 本時のねらい

兵十の行動からごんに対する心情の変化を捉え、吹き出しに書く。

- ③ 授業の実際

最終場面で「兵十のごんに対する憎しみの気持ちが変化したのはどの行動の時か」と焦点化した課題を提示することにより、児童の中に考えのズレが生じ主体的に検討することができた。最後に、実際にごんを撃つ兵十を演じさせ、兵十の気持ちに迫った。

- ④ ご指導 (佐渡市立金泉小学校 校長 山口 学 様)

- ・作者新美南吉の生い立ちを探ることで、孤独なごんぎつね像の背景を見つめることができ、人間のありのままの姿・生き方を考えさせられることになる。
- ・起承転結でない場面④⑤から、撃たれてもよいから自分の存在に気付いてほしいと願うごんの「覚悟」が見えてくる。物語の構造は、作者の意図を反映させている。命を失うことでしか人間と心を通わせることができなかった弱い動物の強さを描き出そうとしていたのではないか。



3 成果と課題

- (1) 成果

- ① 学びの価値(意味)を子どもたちが感じとることで、全員が学習に能動的に参加することができる。そのことが、協同学習の成果につながる。
- ② 考えにズレを生ませる焦点化した課題は、再度文章全体を読み返させ、根拠の明確な自分の考えをもたせることに有効である。

- (2) 課題

- ① 互いを尊重できる協同学習の雰囲気作り(=集団のルール)をどの教師も徹底し、共通理解を図る必要がある。
- ② 従来の場面読みから脱却し、物語全体から作者の意図を把握させることにより、児童一人一人に自分の考えをまとめる能力を育成することができる授業作りを目指す必要性がある。